

Jミルクが2021年5月28日に公表した「需給見通し(※2021年4月迄実績)」の予測値とその後の実績をグラフ化しています。  
「牛乳乳製品統計(農林水産省)」の公表に併せて、今後も毎月配信していきます。

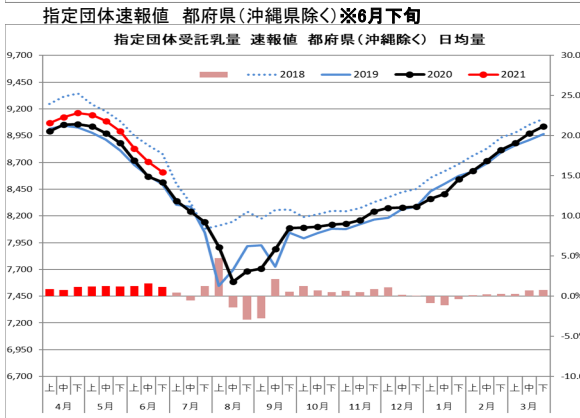
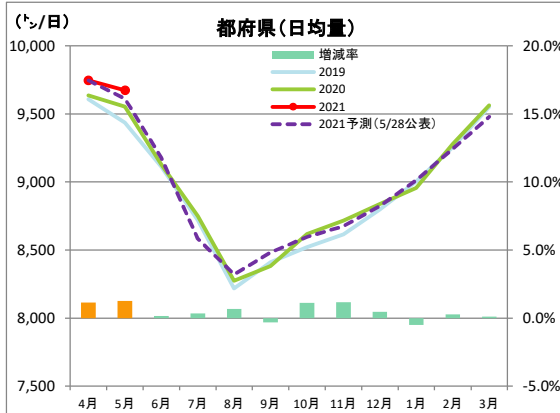
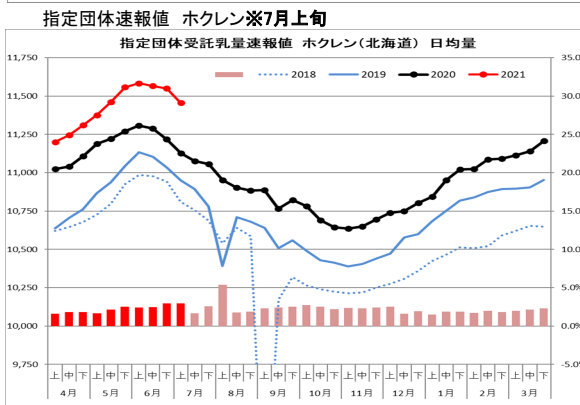
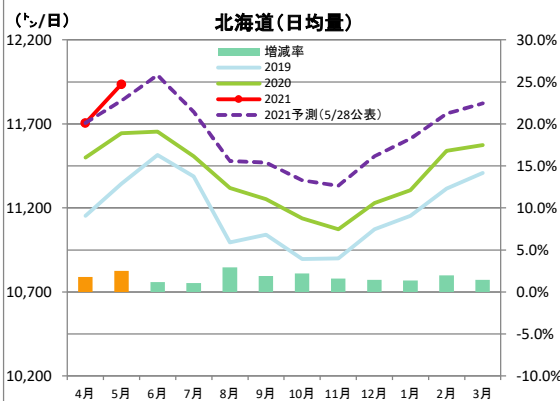
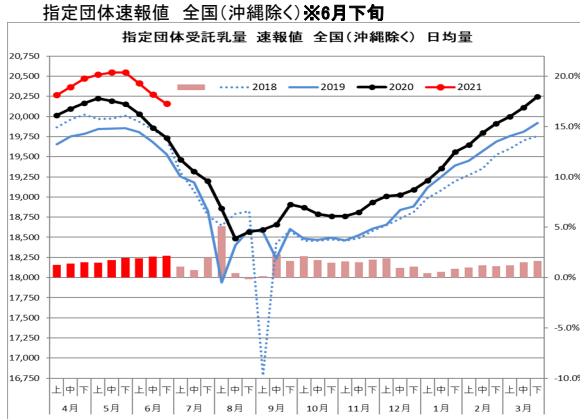
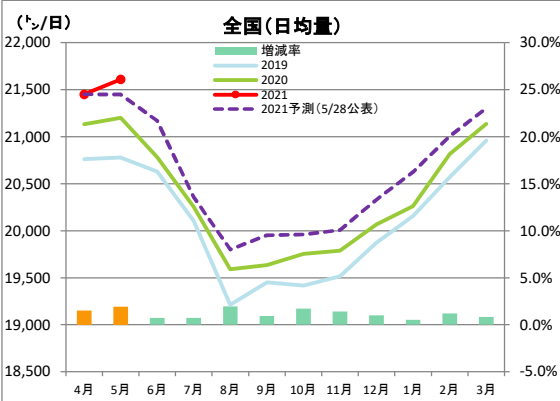
発行: 一般社団法人Jミルク生産流通グループ

◀家庭内消費のさらなる拡大が重要～生産現場では暑熱対策の徹底を～▶

- ・5月の需給実績について、生乳生産は北海道・都府県ともに予測から上振れし、好調に推移した。また、飲用需要については、前年の学乳供給停止による反動等もあり、全体では前年を大きく上回った。なお、脱脂粉乳・バターの出回り量は前年を上回ってはいるものの、予測からは下振れしており、在庫量は引き続き高水準で推移している。
- ・6月の牛乳販売動向(インテージSRI+実績:前年比94.9%、Jミルク予測:前年比96.1%)については、統計が高めに出ることを勧奨すると、予測から大きくズレることなく推移している可能性が高い。
- ・直近(7/5週)の牛乳類の消費については、前週(6/28週)と同程度の販売個数で推移している。また、ヨーグルトについては、大容量タイプが前週より若干減少したものの、家庭用バターについては前週と同程度の水準で推移している。
- ・なお、東京都においては7/12より「緊急事態宣言」が再び発令されており、引き続き業務用需要への影響が懸念されるものの、西日本より順次梅雨明けとなっていることから、今後の飲用需要の拡大に向けて、業界としては継続的な取り組みが重要となる。また、今夏は平年より気温が高くなる可能性も示唆されていることから、生産現場においては暑熱対策の徹底が求められる。

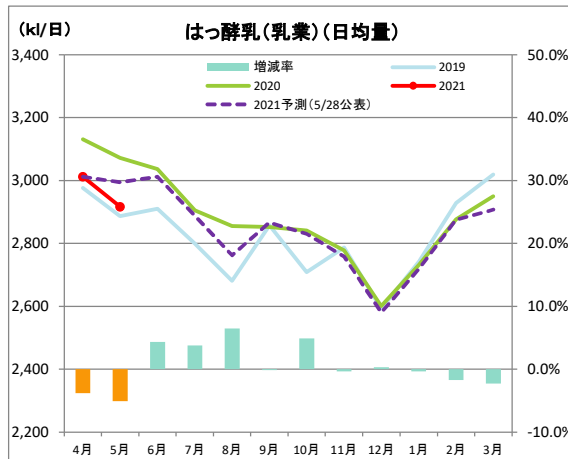
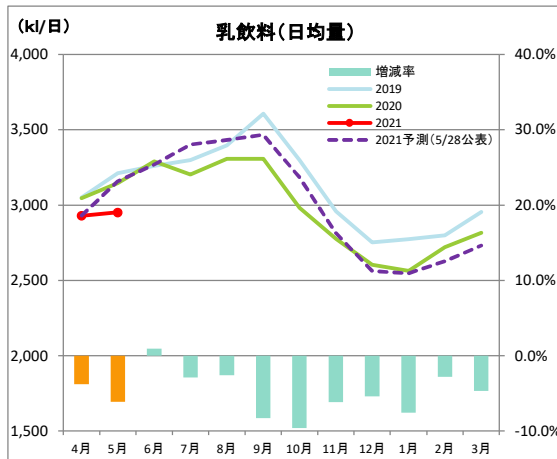
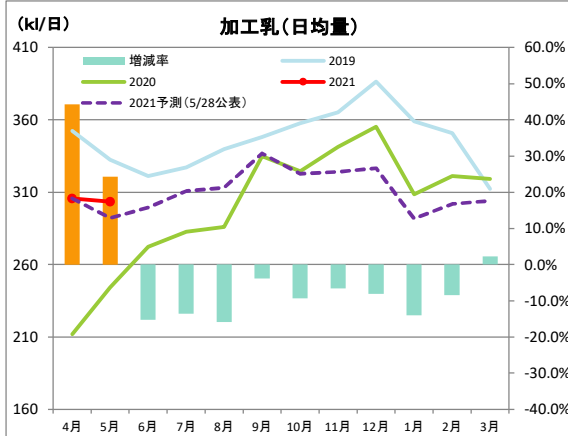
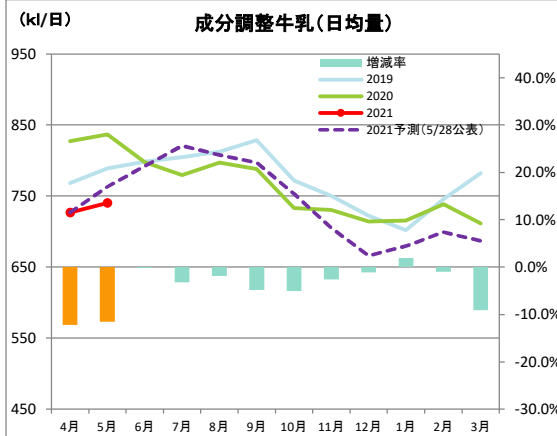
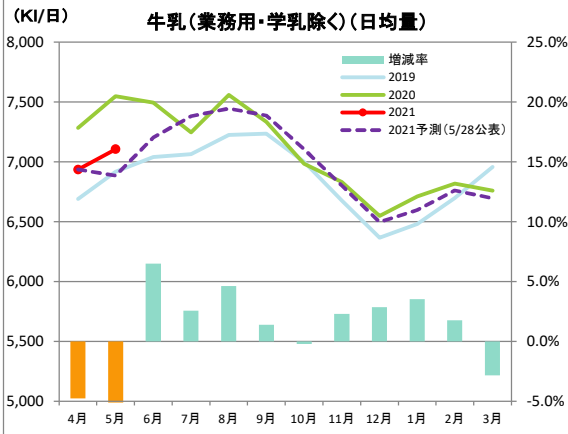
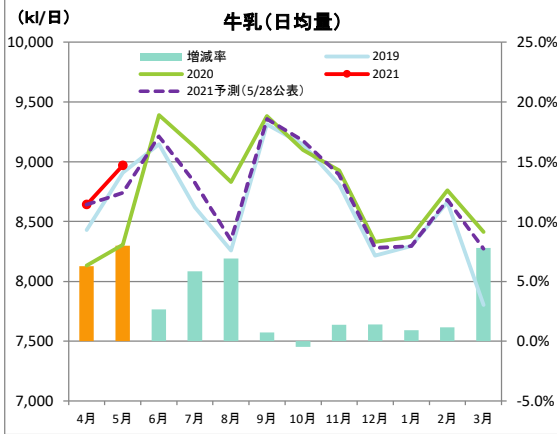
【生乳生産量】※増減率は、日均量で算出。

- (1)5月の生乳生産量は、全国670千トン(前年同月比101.9%)、北海道370千トン(同102.5%)、都府県300千トン(同101.3%)。
- (2)Jミルク予測値(全国:665千トン、北海道:367千トン、都府県298千トン)から北海道・都府県ともに上振れして推移している。
- (3)直近の指定団体速報値によると、全国が同102.2%(6月下旬)、北海道が同103.0%(7月上旬)、都府県(沖縄除く)が同101.1%(6月下旬)。



【牛乳等生産量】 ※増減率は、日均量で算出。

- (1) 5月の牛乳等生産量は、牛乳278千kl(前年同月比108.0%)、成分調整牛乳23千kl(同88.5%)、加工乳9千kl(同124.3%)、乳飲料91千kl(同93.9%)となり、牛乳類合計では402千kl(同103.5%)となった。  
なお、予測との比較では、牛乳・加工乳は上振れ、成分調整牛乳・乳飲料は下振れしている。
- (2) 「牛乳」のうち、「業務用以外」は、同94.1%と前年を下回ったが、「業務用」は同135.1%と前年を大きく上回った。
- (3) はっ酵乳(乳業)は90千kl(同94.9%)と前年を下回っており、予測値からは下振れして推移している。  
また、非乳業実績(4月)については、同100.4%と前年並みで推移している。

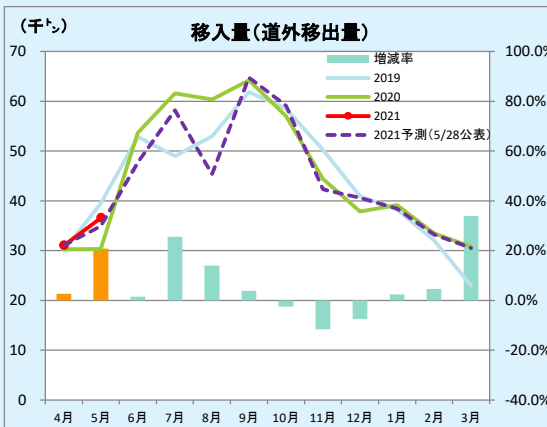
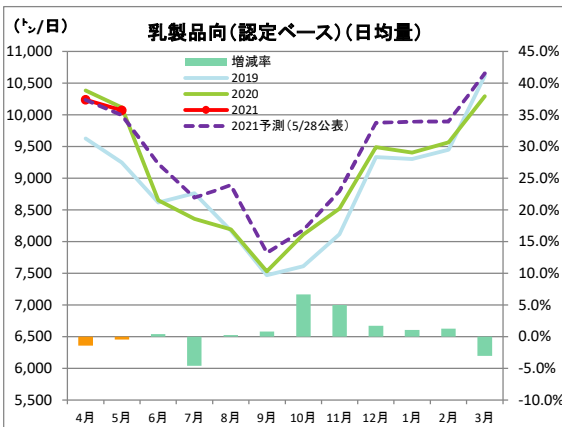
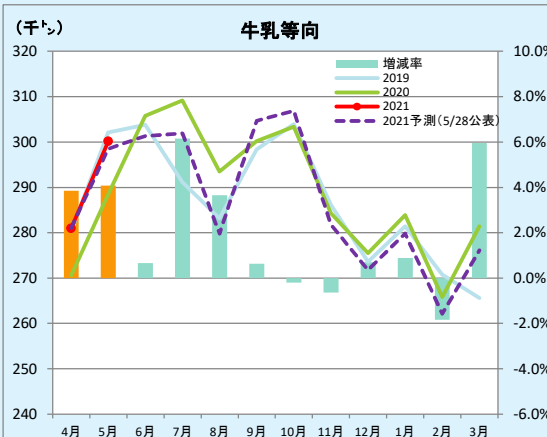
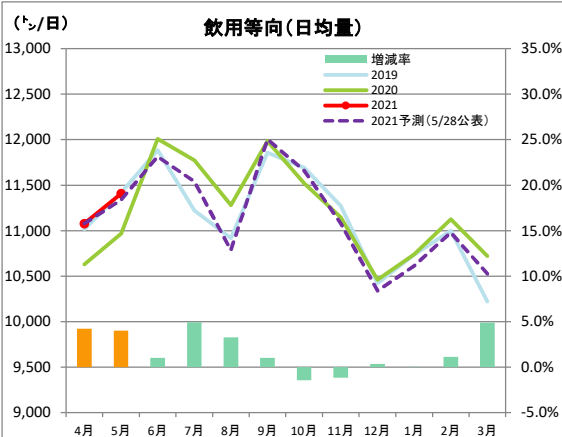
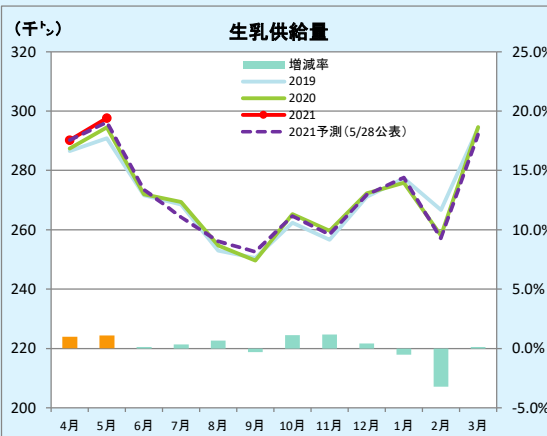
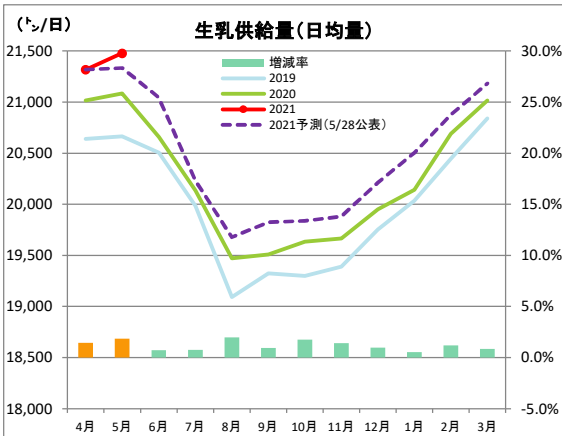


【用途別処理量】 ※増減率は、日均量で算出。

(1)5月の生乳供給量は666千トン(前年同月比101.9%)、飲用等向354千トン(同104.0%)、乳製品向(認定ベース)312千トン(同99.5%)。  
 (2)予測値との比較では、生乳供給量(予測値:661千トン)、飲用等向(予測値:351千トン)、乳製品向(予測値:310千トン)ともに上振れで推移している。

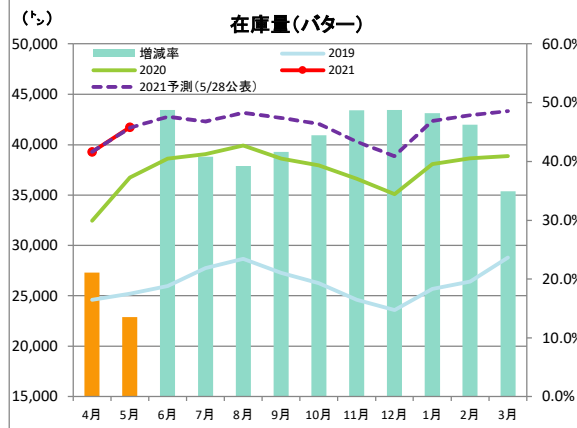
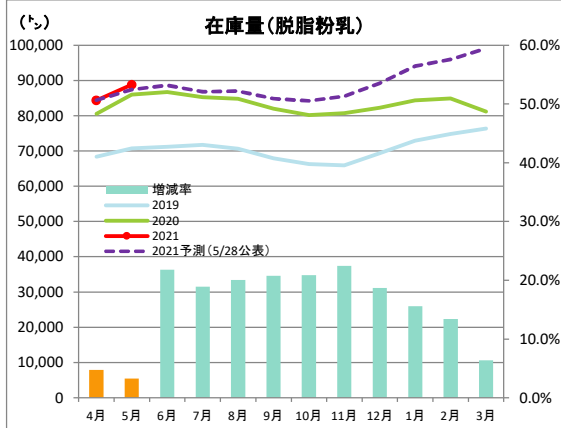
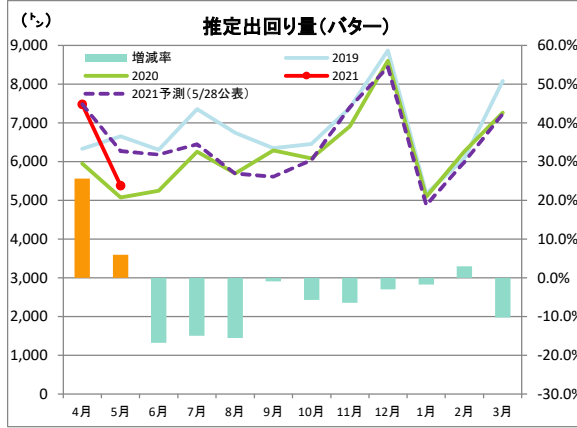
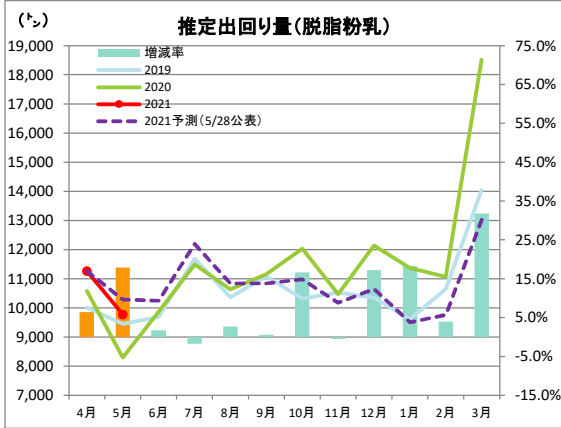
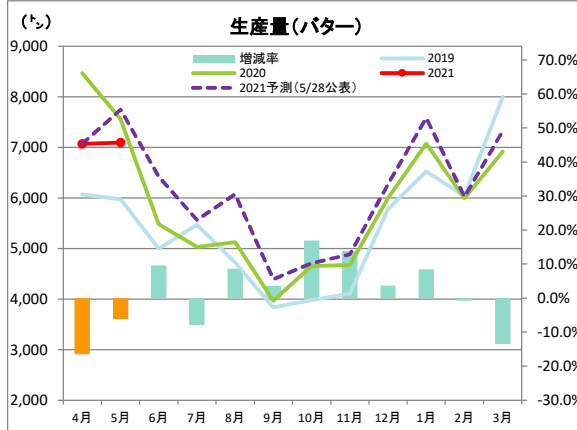
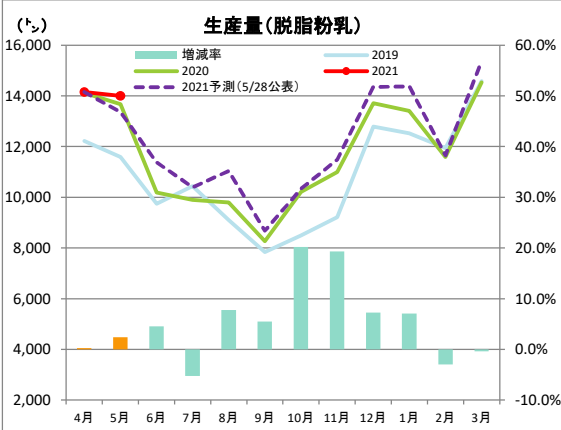
【都府県の生乳需給】

(1)5月は、生乳供給量298千トン(前年同月比101.1%)、牛乳等向300千トン(同104.1%)。  
 (2)北海道からの移入量について、37千トン(同120.8%)と前年を上回った。  
 (3)予測値との比較では、生乳供給量(予測値:296千トン)、牛乳等向(予測値:299千トン)、北海道からの移入量(予測値:35千トン)ともに若干上振れで推移している。



【脱脂粉乳・バター需給】

(1)脱脂粉乳は、5月の生産量は14.0千トン(前年同月比102.4%)、推定出回り量は9.8千トン(同117.9%)、その結果、在庫量は88.8千トン(同103.3%)。推定出回り量(≒需要量)は前年を上回って推移している。  
 なお、予測値との比較では、推定出回り量(予測値:10.3千トン)は下振れして推移している。  
 (2)バターは、5月の生産量は7.1千トン(同93.9%)、推定出回り量は5.4千トン(同106.0%)、その結果、在庫量は41.7千トン(同113.5%)。  
 推定出回り量(≒需要量)は前年を上回って推移している。  
 なお、予測値との比較では、推定出回り量(予測値:6.3千トン)は下振れして推移している。



**【牛乳類の販売速報(推定値):インテージSRI+】** ※量販店・コンビニ等、小売店の販売実績

**(1)6月の動向(表①参照)**

・販売個数は、牛乳:前年同月比94.9%、成分調整牛乳:同94.8%、加工乳:同90.7%、乳飲料:同89.8%。  
牛乳類では同94.0%

【参考】2019年度比…牛乳:104.2%、成分調整牛乳:92.0%、加工乳:86.5%、乳飲料:91.2%(牛乳類トータル:100.7%)

・販売単価は、牛乳:189.2円、成分調整牛乳:173.2円、加工乳:187.7円、乳飲料:150.1円。

**(2)直近の週次動向(表②・グラフ参照)**

・直近(7/5週)の販売個数は、牛乳:前年同期比97.9%、成分調整牛乳:同94.6%、加工乳:同94.6%、乳飲料:同90.0%。  
牛乳類トータルでは同96.4%

【参考】2019年度比…牛乳:108.9%、成分調整牛乳:93.5%、加工乳:92.1%、乳飲料:94.6%(牛乳類トータル:104.9%)

・販売単価は、牛乳:189.5円、成分調整牛乳:174.0円、加工乳:186.9円、乳飲料:150.6円。

※出典 (株)インテージSRI+週データ。販売本数、販売単価(税抜)については推定値。**データ転用はご遠慮下さい。**

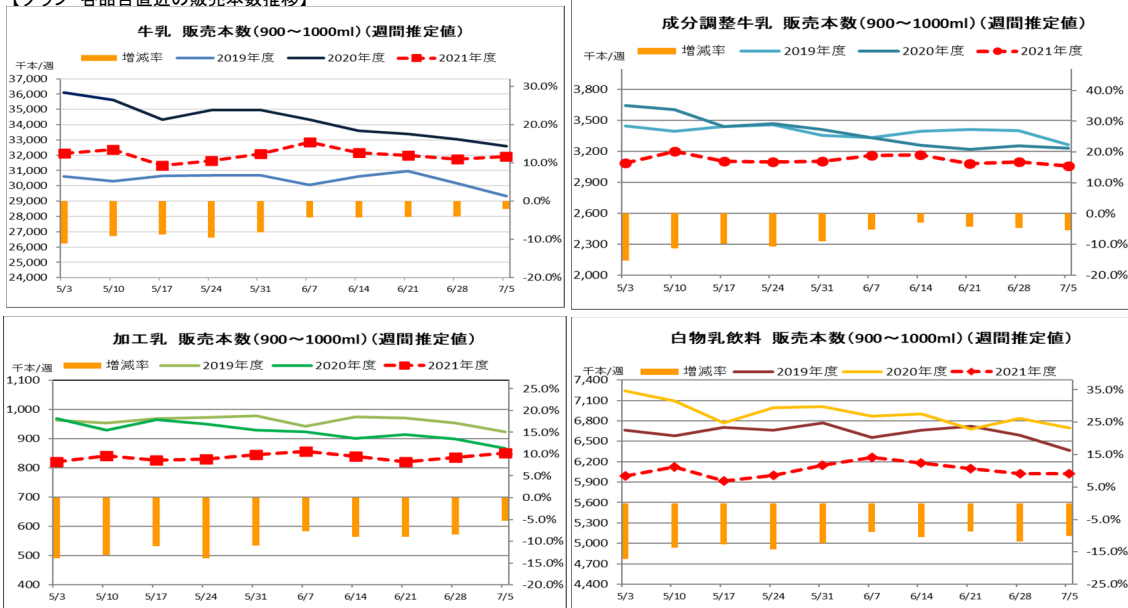
**【表① 牛乳類の月別販売動向】**

単位:千個、円

品目	区分	2021/1-	2021/2-	2021/2- 同年修正	2021/3-	2021/4-	2021/5-	2021/6-
		販売個数	171,074	157,626		172,484	170,770	185,127
トータル	販売個数前年比	104.7	98.8	102.4	96.1	89.1	88.7	94.0
	販売単価	182.4	182.0		182.2	182.6	182.5	182.3
牛乳	販売個数	129,682	119,005		130,908	129,581	141,090	138,006
	販売個数前年比	106.5	100.3	103.8	97.4	90.0	89.7	94.9
成分調整牛乳	販売個数	189.4	189.1		189.0	189.5	189.2	189.2
	販売個数前年比	102.0	96.0	99.5	93.7	87.1	87.7	94.8
加工乳	販売個数	12,875	12,064		13,166	13,022	13,826	13,413
	販売個数前年比	102.0	96.0	99.5	93.7	87.1	87.7	94.8
乳飲料	販売個数	173.0	172.5		172.7	172.8	173.0	173.2
	販売個数前年比	102.0	96.0	99.5	93.7	87.1	87.7	94.8
牛乳	販売個数	3,275	3,045		3,393	3,387	3,668	3,599
	販売個数前年比	95.8	93.0	96.4	94.9	90.1	86.8	90.7
成分調整牛乳	販売個数	188.4	187.8		187.1	189.2	188.7	187.7
	販売個数前年比	98.8	94.3	97.7	90.8	85.2	84.7	89.8
加工乳	販売個数	25,241	23,512		25,018	24,780	26,543	26,367
	販売個数前年比	98.8	94.3	97.7	90.8	85.2	84.7	89.8
乳飲料	販売個数	150.6	150.3		150.5	151.0	150.8	150.1
	販売個数前年比	98.8	94.3	97.7	90.8	85.2	84.7	89.8

**【表② 牛乳類の販売動向(直近の週次動向)】**

品目	区分	5.10-	5.17-	5.24-	5.31-	6.7-	6.14-	6.21-	6.28-	7.5-
		販売個数	42,520	41,159	41,551	42,178	43,152	42,366	41,996	41,699
トータル	販売個数前年比	89.9	90.5	89.6	91.1	94.9	94.8	95.0	94.7	96.4
	販売単価	182.3	182.8	182.4	182.3	182.3	182.3	182.4	182.4	182.7
牛乳	販売個数	32,359	31,312	31,624	32,082	32,872	32,179	31,993	31,737	31,926
	販売個数前年比	90.8	91.2	90.5	91.8	95.7	95.8	95.8	96.0	97.9
成分調整牛乳	販売個数	189.1	189.6	189.2	189.2	189.2	189.2	189.3	189.3	189.5
	販売個数前年比	102.0	96.0	99.5	93.7	87.1	87.7	94.8	94.8	96.4
加工乳	販売個数	3,198	3,105	3,101	3,104	3,163	3,164	3,080	3,101	3,056
	販売個数前年比	88.8	90.3	89.4	91.0	94.8	97.1	95.7	95.4	94.6
乳飲料	販売個数	172.6	173.6	173.1	172.6	173.4	173.0	173.7	173.0	174.0
	販売個数前年比	98.8	94.3	97.7	90.8	85.2	84.7	89.8	89.8	90.7
牛乳	販売個数	841	826	830	844	857	840	820	836	850
	販売個数前年比	86.8	89.0	86.1	89.0	92.3	91.0	91.0	91.5	94.6
成分調整牛乳	販売個数	188.5	188.7	188.1	188.2	188.1	187.7	188.1	186.8	186.9
	販売個数前年比	98.8	94.3	97.7	90.8	85.2	84.7	89.8	89.8	90.7
加工乳	販売個数	6,122	5,916	5,996	6,148	6,261	6,183	6,102	6,025	6,028
	販売個数前年比	86.3	87.3	85.8	87.7	91.1	89.6	91.3	88.1	90.0
乳飲料	販売個数	150.9	151.0	150.5	150.3	150.0	150.3	150.0	150.3	150.6
	販売個数前年比	98.8	94.3	97.7	90.8	85.2	84.7	89.8	89.8	90.7

**【グラフ 各品目直近の販売本数推移】**


## 【ヨーグルト類の販売速報(推定値):(一社)Jミルク調べ】

(1) 直近の週次動向(表④参照)

直近(7/5週)の販売個数は、ドリンクタイプ(90~250ml):前年同期比90%以上、個食タイプ(70~130ml):同90%以上、大容量タイプ(350~500ml):同90%以上。

(2) 大容量タイプは前週(6/28週)より販売個数が若干減少した。

【表③ ヨーグルト類の販売動向】

品目	5.10-	5.17-	5.24-	5.31-	6.7-	6.14-	6.21-	6.28-	7.5-
ドリンクタイプ	↓	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘
個食タイプ	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘
大容量タイプ	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘



:前年比90%未満



:前年比105%以上110%未満



:前年比90%以上100%未満



:前年比110%以上120%未満



:前年比100%以上105%未満



:前年比120%以上

※なお、下地の色が濃いほうが、上記範囲内で前年との増減差が大きいことを表す。

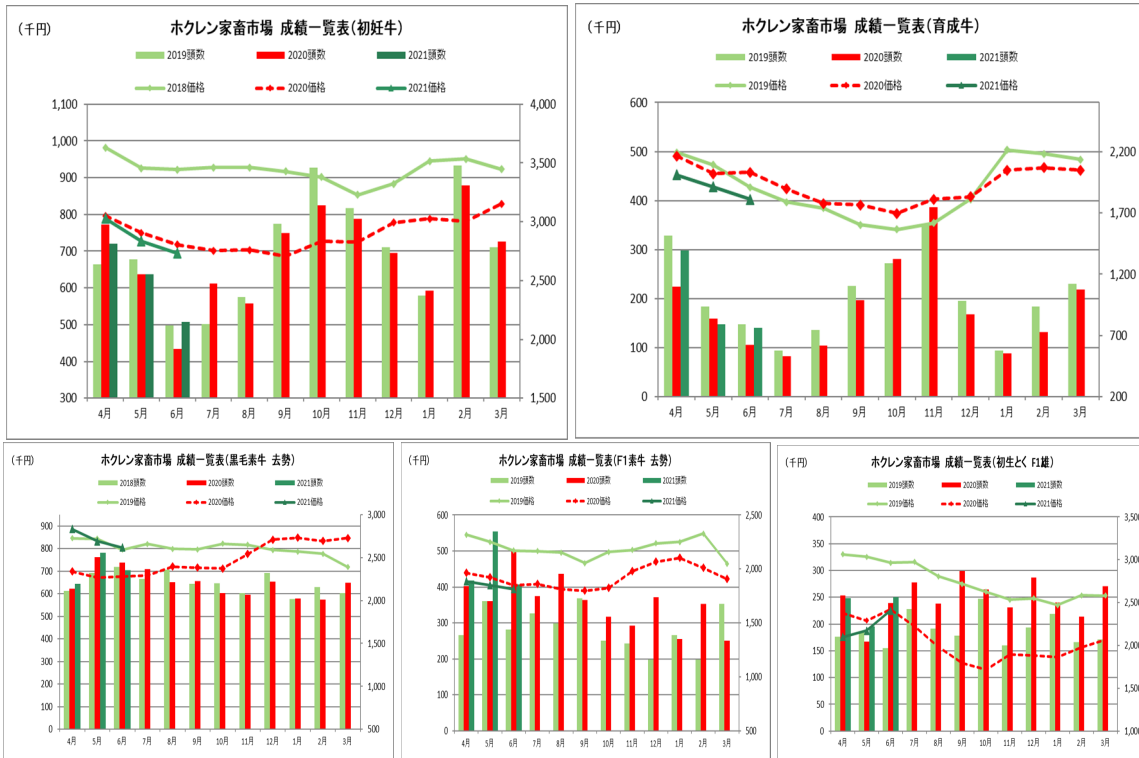




【家畜販売価格動向】

(1)6月の家畜販売価格動向について、ホクレン家畜市場集計によると、初妊牛価格は695千円(前年同期比96.8%)、育成牛価格は403千円(同88.0%)、和牛素牛(去勢)価格は805千円(118.9%)、F1素牛(去勢)価格は394千円(同97.3%)、F1初生(雄)価格は225千円(99.3%)。  
 (2)上場頭数(出荷り頭数)は、初妊牛:同111.7%、育成牛:同122.0%。また、和牛素牛(去勢):同96.4%、F1素牛(去勢):同86.1%は前年を下回ったが、F1初生(雄):同102.8%と前年を若干上回った。

※ホクレン家畜市場集計表 速報値(<https://www.kachiku.hokuren.or.jp/Downloadresult.aspx>)



【その他 気温推移】

向こう3か月間(7~9月)の天気予報によると、平均気温については、東日本・西日本ともに平年より高い確率が40%となっている。

※日本気象協会「向こう3か月間予報」

※下記図は、気象庁「前3か月の気温経過」

